

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0270301492		
法人名	寿栄会		
事業所名	石堂さくら通りロジェ		
所在地	青森県八戸市石堂二丁目29の7		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270301492&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年11月8日

(ユニット名)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①地域との交流は町内会に加入し、公民館、地区集会所の行事や地域の防災訓練に参加し活発に行っている。また、年に1度、利用者、家族、地域の方々の「バーベキュー交流会」を開催し交流を図っている。
- ②家族同伴の外出(外食ドライブ、日帰り旅行)で利用者と家族の楽しい時間が持てるよう、参加の声掛けもしている。
- ③キャラバンメイトとして地域に出向き「認知症サポーター講座」を開催し、認知症の予防や普及活動を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内会に加入し、地域の行事等に参加し、防災訓練にも参加協力をして貰うなど十分な交流がなされている。家族同伴の外食ドライブは年一回計画しており、利用者と家族が楽しい時間を持てるよう、参加者に声をかけている。独自で考えた[気づきメモ]を作成、壁に掲示し、職員が共有し感じたことを自由に書けるよう工夫されている。キャラバンメイトとして地域に出向き「認知症サポーター講座」を開催し、認知症の予防や普及活動を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は事務室や共用ホールに掲示しており、毎朝申し送り時、当日の勤務スタッフ全員で「基本理念」を唱和している。また、新規の採用職員には採用時の研修で理念の意味を伝え職員全体で共有できるようにしている。	法人の基本理念は事務室やホールに掲示している他、地域密着型サービスを反映したホーム独自の理念を作成している。職員・管理者は理念を理解し、理念に沿ったケアを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に出席されている地域の代表者の方々には「おやつ作り」や「唄や踊り」を披露して下さっている。また、地域行事には職員や可能な場合は入居者も含め参加している。(総会、新年会、盆踊り、防災訓練等)	町内活動が活発な地域で、文化祭・新年会・忘年会・防災訓練等に参加したり、老人クラブの慰問等がある等、日頃から地域との交流が盛んに行われている。災害時には近隣からの声かけ等もあり、地域との関係がスムーズである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民がホームを訪れたり、併設のデイサービス利用者との交流もあり地域のグループホームとして理解されている。また、職員は認知症キャラバンメイトの活動に協力参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長や民生委員、消防団、市職員、家族等をメンバーに運営推進会議を開催し、ホームの活動状況や自己評価、外部評価の結果を報告し、積極的な意見を得ている。出された意見はサービスの向上に生かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、町内会長・民生委員・消防団・市の職員・家族2～3名が参加し、活動状況の報告や目標達成計画を説明したり、意見交換を行い今後反映するよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市に事業計画や事業報告のほか、自己評価や外部評価結果を提出し、ホームの情報提供を行う事で、運営や現場の実情を伝える機会を設けている。また、情報収集や困難事例等の相談等、担当部署との連携を心掛け、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	4月からホームページを作成し、自己評価や外部評価の結果や目標達成計画を報告し、情報収集や困難事例等の相談等、行政との連携を図り、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>外出希望のある利用者には時間を決め職員が付き添いのもと散歩や買い物等で気分転換等を図っている。法人で「身体拘束ゼロへの取り組み」のマニュアルに沿って取組を行っている。</p>	<p>管理者・職員は研修を行い、身体拘束の内容や弊害について理解しており、法人で身体拘束ゼロへの取組のマニュアルに沿って取り組んでいる。外出傾向が把握できるよう、玄関にセンサーが取り付けられており、玄関や居室には施錠していない。外出希望のある利用者には、職員が時間を決めて一緒に出掛けている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の研修に参加し内部研修等で虐待防止についての意識向上につなげており、発生の防止にも努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>随時外部の研修に参加し学ぶ機会を得ながら利用者、家族には必要に応じ事業についての説明を行い支援しているが全職員が制度を理解できるまでには至っていない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項を説明し利用者や家族等の意見を十分に引き出している。契約改訂時や退居時にも利用者や家族に十分説明し納得が得られるよう配慮しているほか、情報提供を行う等関係機関と連携を図っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者が苦情、要望の対応窓口になっている。利用者にはいつでも来れる体制が出来ており全職員も必要に応じ相談に応じている。第三者委員の方にも月1回来て頂き、相談や話を聞き入れてもらっている。</p>	<p>事業所内外の苦情窓口を明示し、苦情ボックスを設置している他、第三者委員が月に一度来所し、相談や意見等を聞く機会を設けている。利用者の言動から意見や不満等を察知できるよう取り組んでおり、運営推進会議や面会時に家族が意見を言いやすいような雰囲気を作り、出された意見は会議で話し合い、今後の運営に活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇改善会議の場で意見や提案を聞く機会を設けている。また、受け入れ時は入所判定会議をもって全職員の意見が聞けるように期日や時間で会議を行っている。出された意見や提案は管理者から運営者に報告している。	運営者や管理者は、職員の資格を活かせる様配慮し、異動時には利用者に混乱のないよう詳細な引継ぎを行っている。また、職員会議での提案、発言の機会があり反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に則った就業規則があり労働条件を整えている。また「ファミリーサービスデー」として毎週月、木曜日はノー残業を行っていることで職員のやる気が介護サービスに反映されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規の採用後1ヶ月程度は新人の育成期間として、中堅職員とマンツーマンで業務につき、指導を行っている。また1ヶ月に1回は勉強会を開催しており、その他必要に応じて外部研修にも派遣している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム協会や市のグループホーム協議会に加盟しており、そこで開催している研修や懇親会等には管理者を中心としながら他の職員も含め、積極的に参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまでの情報や本人、家族の要望については面談相談により出来る限りの把握に努め処遇の向上に向けていけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談を通し要望、ニーズの把握により不安の解消を図る。また定期(3ヵ月に1度)や必要時は随時モニタリング介護計画の見直し、面談により説明と同意をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向や状況の把握を担当の介護支援専門員の協力を仰ぎながら検討し、適切なサービスであるかを判断している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常業務の中で、利用者に関わる時間を多く持つ事に努めており、その中で調理や編み物、家庭菜園について利用者から学んだり過去の出来事を話して頂きながら共に楽しく過ごされている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族がどのような関係であるかを把握し、それに合わせた支援をおこなっている。毎月の行事や日帰り旅行等は家族に声掛けし、本人、家族、職員とのより良い時間が共有出来ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場については家族や親戚に協力をあおいでいるが現実的に支援が難しいこともある。本人が望む馴染みの人等併設のデイサービスを利用している場合は交流出来るよう努めている。	入所時に家族から情報収集し、これまで関わってきた人たちを把握している。外出の機会が多く、馴染みの場所等を通りかかることがあり利用者にもその都度、声掛けすることで支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係は職員間で把握している。仲の良くない方やトラブルの可能性のある場合はさりげない配慮を行っており、孤立するような状況の時は職員が間に入る等の対応をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院でやむを得ず退所となった場合、退所後も医療機関との連携や、退院後に新たにサービスを利用する際は必要に応じ情報提供する等、相談や協力をする等取り組んでいる。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の学習を通してアセスメントの活用 の充実と会話や普段の暮らしの中から、 個別に本人の意向の把握に努めてい る。本人が何を望んでいるかを第一に考 え介護計画に反映させている。	職員は利用者や家族の思いや意向、希 望を把握するよう努めている。把握でき にくい時は全職員が利用者の視点に 立って意向等を把握するようにしてい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生 活環境、これまでのサービス利用の経過等 の把握に努めている	家族や以前利用されていたサービス関 係者や病院の関係者から情報収集する 様努めているが場合によっては生活歴や 入所前の生活環境が十分に把握できな い事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の中から個別に把握してい る。処遇改善会議やケース検討会議の 場で総合的な判断をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあ り方について、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイデアを反 映し、現状に即した介護計画を作成してい る	計画作成担当者が中心となり、「ケアプラン 策定の流れ」マニュアルに添って定期 的にケース検討会議の場で職員全員参 加の下で意見を反映させた介護計画を 作成している。	利用者がその人らしく暮らし続けること が出来よう、利用者の意見を聞くよう 努め、計画担当者が中心となり、マニ ュアルに沿って、全職員の参加の下で意 見を反映させた介護計画を作成してい る。見直しを行う場合は、家族や利用者 等の意見や気づきを収集する等、再ア セスメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工 夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有 しながら実践や介護計画の見直しに活かして いる	個別のケース記録に日々の状態を記録 している。一日二回行われている申し送 りの時間で情報の引き継ぎを行い、情報 の共有化を図っている。また気づきシート を使用し常時気づきを記載し対応策は即 ミーティングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニー ズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会長、民生委員、消防団の方々には運営推進会議や地域との交流行事の際には協力を頂いている。地域との交流行事は「唄や踊り」の披露の他災害時も協力をして頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所契約時に病院受診についての意向を確認している。かかりつけ医があり、希望があれば関係を継続していけるよう支援できる体制のある。受診結果はその都度家族に報告し、結果に必要な対応は出来ている。	入居者の受診状況を把握しており、希望する医療機関があれば、受診できるよう支援している。また、歯科医は往診して頂く等医療機関との連携が密である。受診結果はその都度家族に報告している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者が看護職の為健康管理や医療機関への支援を行っており、緊急時の対応も出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は介護サマリーを作成提供している。また、原則1週に1回程度職員が入院先を訪問して状態の観察や今後の治療予定等の情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のことは入所契約時に確認しており職員と家族との方向性の共有を図る様にしてしている。また、重篤な疾患が発症した場合はその都度、家族、医療機関との話し合いを行い、意思統一を図っている。	利用者の重度化や終末期の対応について、入所時に事業所の方針を明確化し、看取りの指針を作成し、家族から同意を得ている。状況が変化した場合は、医療機関、家族、職員で話し合い意思統一を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	中堅職員は救急救命の研修を受けており、急変や事故発生時は「緊急時対応マニュアル」に添って対応出来ている。事故発生に対しては安全管理委員会を設け月1回の会議と適宜ヒヤリハットの報告と検討を行っている。			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員で毎月1回の防災訓練を実施している。地域との協力体制については運営推進会議で話し合い地域の方々から協力を得ることに理解を頂いた。今後マニュアル作成の予定となっている。		非常災害時の対応手順や役割分担等についてのマニュアルが作成されている。全職員で毎月1回の防災訓練を実施し、夜間想定の実施訓練も予定している。災害時には地域住民や消防署等から協力が得られる体制となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に声掛けや対応について工夫している。個人情報については入所契約時に説明し同意を得ている。職員については個人情報保護についての説明と契約書に記入してもらい定期的に更新する事で意識の低下を防止している。		利用者の意向を配慮した上で、年長者と接するうえでの常識的かつ適切な呼びかけや声かけに対応している。職員は個人情報の取り扱いや守秘義務等の研修を行い、個人情報が訪問者の目に触れないよう配慮している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決定したり、希望を表したりできる場を日々の生活の中で意識的に引き出していけるようにしている。食事のメニューや余暇活動の内容、外出先や買い物について等。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活していくペースを尊重して支援していく事が前提である事は全職員が共有して理解出来ており、食事、入浴以外はほぼ利用者のペースを大切にしている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は自分で好きな物を選んで着て頂いている。化粧も好みに応じて行って頂き、理・美容についても希望に添って支援する体制は出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は併設の通所事業所と同様のものを提供しているが、朝、夕食については利用者と一緒に献立を立てたり、買い物も希望に添って一緒に出掛けている。調理に対しては個々の能力を把握し、米とぎや皮むき等を行って頂いている。	昼食は併設事業所と同様のものを提供しているが、朝、夕は利用者の好みや苦手なもの等を把握し、献立を作成し、利用者も下ごしらえを手伝っている。また、ミニ菜園で育てた野菜を利用者と一緒収穫し、食材として利用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時献立表を法人の管理栄養士に見てもらい栄養バランスは取れている。また、飲水量の少ない利用者にはトロミ水を提供し水分量の確保に努めている。糖尿病のある利用者の摂取量は医師の指示に従い確保している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お茶の入ったペットボトルを毎日洗面台に置き、うがいを促している。毎食後の歯磨きは声掛けで行って頂き週1回の入れ歯洗浄は個々に応じて介助している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握をして、時間帯に合わせ個別の対応で支援している。また、オムツは出来る限り使用しないで、トイレで排泄が出来るよう介護計画にも取り入れながら支援している。	個々の排泄パターンを把握しており事前誘導する等、オムツを使用しないよう工夫を凝らし自立に向けた支援を行っている。入所時にはオムツ使用者が多かったが、現在尿とりパット使用者1名、オムツ使用者はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者には毎日、牛乳、ヨーグルト、献立等で便秘の予防に努めているが排便チェックで頑固な便秘の方は医師に相談し対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯はある程度決まっているが、入浴する時は一人ひとり時間制限せずゆっくりくつろいで入れるよう工夫している。また希望者は併設のデイサービスの大風呂にも入れるよう配慮している。	入浴は週2回としているが、入浴日や時間帯、入浴時間等は利用者の意向を取り入れている。夏場はシャワー浴にしたり、併設デイの大風呂を利用するなどの支援をしている。入浴を拒否する方には、毎日足浴をしながら利用者とのコミュニケーションを図る等工夫し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活パターンや夜勤帯の観察から個々の睡眠の状態を把握している。希望者にはラジオをかけたり、蜂蜜湯等で気分が落ち着くよう対応し眠剤等の導入は控えるように努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については個別に一覧表にしてあり、内容や服薬時間まで明記し、全職員で情報の共有ができています。薬の管理についても複数の職員で確認出来る体制になっており、誤薬の防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の準備や後片付け、庭の草取り、裁縫等利用者が意欲を持っているものについては個別に能力を考慮して楽しく安全に行えるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿い、日々の散歩、買い物等付き添い等を行っており、毎月一回程度は外食ドライブや日帰り旅行等を実施し家族にも声をかけ希望者は同伴できるよう支援している。	個々の希望に沿い、食材の買い物や町内会の行事に参加する等、毎月1回程度の外食ドライブを計画し、家族にも呼びかけ希望者は同伴できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の金銭管理能力の把握をして、ある程度の金銭は管理してもらっている。買い物の外出時等自分で支払ってもらう事で金銭管理能力の維持、向上に努めている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は必要物品の購入や送付の面で必要があれば支援している。電話についても基本的にはいつでもかけられるように操作等の支援を行っている。			
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用ホールには台所があり、調理の時には音や匂いでの生活感が感じられる。また、ホールには季節の花や利用者と職員で作成した季節に沿った飾りものを飾ったりしている。		共用ホールの天窓から明かりが入り、そのスペースで入居者がソファでくつろいでいる。また、季節感が感じられる飾りもの等にも工夫している。加湿器や空気浄化機を設置する等居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールにはソファもあり利用者一人ひとりが好きなところに座って会話を楽しんだり、自由にくつろいでいる。			
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等があれば部屋に収まる範囲で持ってきて設置して頂いている。また、ベットや家具等は居心地よく過ごす事が出来るよう個々で自由に配置してもらっている。		家族の写真や華道クラブで習った生け花を飾る等、個々に合わせた居室作りがなされている。居室への持込が少ない場合等は、職員と利用者が一緒に居室作りを行っている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の少ない設計、浴室での滑り止めマットの使用、また、浴室、廊下、各部屋のトイレには手すりが設置されており、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう配慮されている。			